

国語科「書くこと」における授業づくりのポイント

安永 亮

1 国語科における主眼について

国語科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つは、内容【思考力、判断力、表現力等】です。二つは、その内容を捉えるための見方や思考方法、活動【言語活動】を書きます。

○ 主眼の作り方の例

- 主眼 1 ～が、～するように（目的）～（構成や記述などを具体的に）することができるようにする。
 2 ～（観点など）を明らかにするために、～して～について話し合うことができるようにする。

【第6学年「私たちにできること」（提案する文章）の主眼1の例】

(1) 高学年「書くこと」の系統を確かめる

5年生1学期	5年生2学期	5年生3学期	6年生1学期	6年生2学期	6年生3学期
報告文	意見文	推薦文	提案する文章	解説文	創作文

→6年生の1学期で初めて「提案する文章」の書き方について学ぶ。他の文種との違いは、構成が異なる。※ 提案する文章は、意見文の中の問題解決型意見文という分類になる。

(2) 学習指導要領解説（141ページ 一部抜粋）内容の焦点化

イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
 第3学年及び第4学年のイを受けて、文章の構成を考えることを示している。第5学年及び第6学年においては、伝えたいことを筋道の通った文章で伝えるために、文章全体の構成や展開を考えることに重点を置いている。
 筋道の通った文章とは、相手に分かりやすく伝わるように、伝えたいことや知らせたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう、論の進め方に注意して組み立てた文章のことである。筋道の通った文章にするためには、第1学年及び第2学年で取り上げた「事柄の順序」に沿った構成や、第3学年及び第4学年で取り上げた「書く内容の中心を明確に」した構成を工夫することに加え、例えば、「考えと理由や事例」、「原因と結果」、「疑問と解決」などのつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくことが大切である。

- 相手に分かりやすく伝わるように…
 →提案する文章は、提案した内容に納得してもらい、取り組んでもらう。つまり、伝えたいことが印象に残ることが大切である。
- つながり…
 →接続関係のことである。（累加、対比、並列など）
 →譲歩構文などの配列

(3) 教材や単元に合わせて内容を具体化する

→グループで考えた取組の提案が印象深く伝わるように、複数の取組は「累加」「並列」「対比」といった接続関係を工夫したり、一つの取組は譲歩構文を用いたりしながら文章を工夫して組み立てることができるようにする。

2 国語科「書くこと」における単元指導計画について

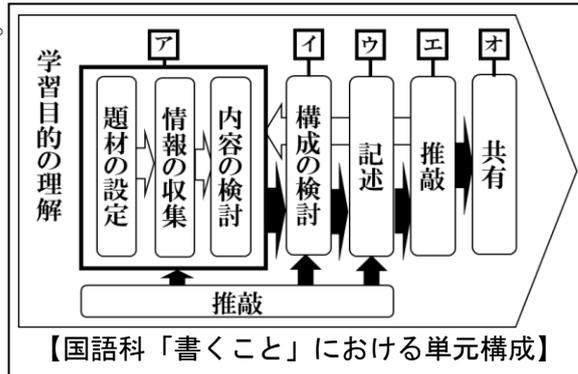
国語科「書くこと」では、自分の伝えたいことが読み手に伝わるように表現するために、単元を通して「言葉による見方・考え方」を働かせながら、文章をつくりあげていくことが大切です。

国語科「書くこと」の単元指導計画では、まず、書く目的、相手を意識することが必要です。その上で、必要な情報を集めたり内容を検討したりし、構成、記述を行い、推敲、共有していきます。この過程を大切にしながら、必要に応じて往還するように学習を進めていくことが大切です。

文章をつくりあげていく各学習過程の中で、自分の伝えたいことやテーマとのつながりをお確かめながら書き進めることで、読み手が納得したり思いや考えが伝わったりする文章になります。

以下は、発達の段階に応じた目的や相手意識等です。

低学年	低学年は、経験したことや想像したことを書いていく中で、誰かに伝えたいという思いをもつことがあるため、必ずしも学習始めに設定する必要はないが、やりとりの中で設定していくとよい。
中学年	中学年は、目的と相手を意識させることが大切である。自分の伝えたいことだけでなく、読み手はどのようなことを知りたいのかといった視点から収集や内容の検討を進めていくとよい。
高学年	高学年は、目的、相手、課題、自分たちの置かれている状況といったことを明確に意識させる。それによって情報を絞って収集したり、説得させるための工夫を行ったりすることができる。



3 国語科「書くこと」における一単位時間の学習過程について

国語科「書くこと」では、子供自らが学習計画を基に本時の課題意識をもち、既習から見通しをもって考えをつくったり、観点を見いだす話し合いをしたりして、自らの文章をつくりあげたり、見直したりするといった問題解決的な学習過程を大切にします。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT活用）

段階	子供の活動	○教師の具体的支援
導入	<p>○ 進捗状況を振り返ったり、サンプル文を比較検討したりして本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>サンプル文 A ← 比較 → サンプル文 B</p> <p>めあて □□が伝わるように～をしよう。</p>	<p>○ 自分（またはグループ）の課題を見いださせるために、<u>二つのサンプル文（よい、不十分）を提示する。</u></p> <p>○ 課題の解決の見通しをもたせるために、<u>進捗状況を共有する。</u></p>
展開	<p>【見通し】□既習の説明的な文章 □情報と情報の関係</p> <p>○ 既習を振り返り、自分（またはグループ）の考えをつくったり工夫を考えたりする。</p> <p>○ 既習の組み立て方を振り返ったり、サンプル文を基に話し合ったりして、組み立て方を選択する。</p> <p>既習の組み立て → 参考・選択 → 自分たちの組み立て</p> <p>○ 選択した組み立て方を基に、文章にまとめる。</p> <p>○ 文章を相互評価して、よさや改善点を話し合う。</p> <p>Aグループ ← 相互評価 → Bグループ</p> <p>よさや改善点</p> <p>○ 見いだした観点を基に、自分（またはグループ）の考えを見直したり、文や文章を整えたりする</p>	<p>○ 自分の考えをつくらせるために、<u>既習の文章構成や表現の工夫についてのスタディ・ログを保存し、いつでも確認できるように共有する。</u></p> <p>○ 既習の説明的な文章から組み立ての工夫を選択させるために、<u>サンプル文（よい、不十分）を提示する。</u></p> <p>○ 自他の考えのよさと目的や相手等とのつながりを捉えさせるために、考えとその理由にどのような効果があるのか話し合う場を設定する。</p> <p>○ 文章を見直したり、整えたりするために相互評価する観点を提示する。</p>
終末	<p>○ 学習内容を振り返り、本時学習のまとめをする。</p> <p>まとめ □□は…である（…するとよい）。</p>	<p>○ 次時の見通しをもたせるために、本時達成したこと、次時の課題についての二つの観点を提示する。</p>

4 「書くこと」における ICT の活用について ※ ICT の活用は主眼達成の手立てであり、目的にならないように気を付けます。

国語科「書くこと」では、ICT の活用について大きく二つの使い方があります。

- ・ 既習内容の振り返りや自他のつくりあげた文章の共有といった毎時間積み上げていく使い方
- ・ 新しい内容を捉えさせるための各学習過程に応じた使い方

○ 「書くこと」における ICT の活用

